

2026年の台風・大雨予測 | 線状降水帯の直前予測・的中率約30%をBCPにどう使うか

Published: 2026-05-29 / Updated: 2026-09-05

Summary

2026年5月に始まった線状降水帯直前予測について、気象庁の運用実績から予測の限界と行動価値を確認します。8月30日時点では適中率約30%、捕捉率約62%で、運用開始前の想定を下回りました。一方、直前予測「あり」の事例の約91%では3時間100mm以上の大雨が発生しています。2～3時間前は目標であり、発表から発生情報まで平均約60分という実績も踏まえ、空振りを許容できる準備を前倒しすることがBCP上の要点です。

Key Points

- 3割打者を打率だけで「7割失敗」と評価しないように、直前予測も適中率約30%だけでは行動価値を判断できません。BCPでは、直前予測「あり」の事例で大雨となる割合、発表から使える時間、見逃した場合の損失、空振り時のコストを合わせて判断し、外れても損失が小さい準備を先行します。
- 2026年8月30日時点の線状降水帯半日前予測・直前予測の適中率、捕捉率、大雨発生実績と評価方法
- 直前予測の想定精度、2～3時間前という発表目標、発表から発生情報まで平均約60分という運用上の性質
- 2026年夏の台風発生・接近見通しと、台風接近前のBCP点検の背景

Sources / References

Government-primary-source

気象庁「線状降水帯半日前予測および直前予測と実際の状況等について」

URL: <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jirei/index.html?theme=10>

気象庁「線状降水帯に関する情報」

URL: https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/kishojoho_senjokousuitai.html

Weather-association-report

一般財団法人 日本気象協会「防災レポート Vol.2 2026年の台風の見通し（7月更新）」

お盆頃にかけて発生増加の可能性 8月は3～6個が日本に接近する予想」

URL: <https://www.jwa.or.jp/wp-content/uploads/2026/07/d87b5726960ea962a03c6641417cfb67.pdf>

Source Article

<https://www.ieee802.co.jp/articles/article-095-typhoon-outlook.php>

© Kei Communication Technology Inc.

This document is a summary of the source article. For the latest information, refer to the source URL.